

第97回計画推進評価部会・第19回計画策定専門部会における意見と県の対応

令和5年8月

NO	委員名	頁	項目名	意見	対応	記載内容等	担当局
新たな総合計画の策定基本方針（案）							
1	米田委員	2	策定基本方針 2ウ(ア)	「県民一人ひとりが社会の支え手として活躍できる環境づくりに注力する必要がある」の記載について、一人ひとりが社会の機能として求められているという視点よりは、一人ひとりが持っている権利として保障されるものはきちんと保証していくべきという視点を重視したい。	策定基本方針（案）に反映しました。	こうしたことから、年齢、性別、国籍、障がいなどにかかわらず、誰もが多様な個性を發揮して、不安を抱えずに暮らし、活躍できる環境づくりに注力することで、県民一人ひとりの持つ力が新たな可能性を生み出していく、質的に豊かな社会を形成する必要がある。	総合政策課
2	小池委員	2	策定基本方針 2ウ(ア)	一人ひとりが幸せになることに対して、政策的に投資していくことが、実は社会全体の持続可能性を可能にしているという理解を県民全体で行えるようにすることが大切である。政策は、一人ひとりがとても大切な存在であって、その方たちが活躍できることによって、例えば少子化が改善されたり働き方の幅が広がるというような、社会の健全性を持続的に保証するものに繋がって、循環性のあるものだという前提に政策は作られていくという表現の方が、さらに県民の皆様にご理解いただけるのではないかと。	策定基本方針（案）に反映しました。	こうしたことから、年齢、性別、国籍、障がいなどにかかわらず、誰もが多様な個性を發揮して、不安を抱えずに暮らし、活躍できる環境づくりに注力することで、県民一人ひとりの持つ力が新たな可能性を生み出していく、質的に豊かな社会を形成する必要がある。	総合政策課

NO	委員名	頁	項目名	意見	対応	記載内容等	担当局
3	小池委員	3	策定基本方針 3	県民参加（パブリック・コメント）について、今回の構想の中でとても重要なのが、子どもをどう育てていくのか、もしくは希望出産数をどう上げていくのか、子どもを産みたいと思っても産めないこの社会をどう回避していくのかというのがとても大切である。産みたいと思っても経済的な問題であったり労働の制約から産めない社会になっていることを考えると、回避するためには単に子育て支援ということだけではなく、産みにくい状況を回避することがとても大切である。意見を聴取する中では特に、女性であったり若い世代から意見を聴取することがとても大切である。	今後取り組む予定です。		総合政策課
4	矢島委員	－	策定基本方針	社会が大きく変わっていくときに、個人の属性だとか世帯の特徴だとか、そういったものについて、実は大きく変わっているのに、これまでの見方を踏襲して、問題を見誤っていないかということを今一度点検することが必要ではないか。社会においても、性別だけではなく、年齢、或いは世代の特性などでアンコンシャス・バイアスに基づいて、その課題や役割であるとか、そういうものを決めつけてないだろうかという視点から計画を見直すのも一つである。世帯の構成、年齢の構成が大きく変わっていく中で、問題ばかりが大きくなるのではなく、それぞれが持つ力や発揮できる能力も変わってきているかもしれない。協力の仕方を変えれば、できることも変わるかもしれない。そうした視点で可能性を見つけていくことが大切である。	策定基本方針（案）に反映しました。	こうしたことから、年齢、性別、国籍、障がいなどにかかわらず、誰もが多様な個性を発揮して、不安を抱えずに暮らし、活躍できる環境づくりに注力することで、県民一人ひとりの持つ力が新たな可能性を生み出し、質的に豊かな社会を形成する必要がある。	総合政策課

NO	委員名	頁	項目名	意見	対応	記載内容等	担当局
5	伊達委員	—	策定基本方針	<p>総合計画の策定基本方針というところで、そのタイトルとして見たときに、この方針がというところを考えるべきで、まずこのフレームワークがいいのか。ネガティブマネジメントではないのか、不確定だから予想困難な時代だから、色々な準備をしていこうとすると非常にコストが掛かる。例えば、柔軟性を確保すればいいのではないか。問題は、別の見方をすると問題でもあり、それは機会でもある。どう描いていくのか、描いた未来に対して私たちはどのように進んでいくのか、子供たちに問題があると言うと、当然ネガティブになる。こんな明るい未来があり、そこに向かって行こうと言ったら、みんな楽しくそっちに向かう。2024年から2027年までの4年間に計画期間にしているが、2024年だけでも長期的に考えたときの4年間、もしくは短期的に考えたときの4年間と言ったことであれば、全く見方が変わってくる。側の検討をするべきで、どういうフレームワークでこれを構成するのかに対して具体的にもう少しこういう見方があるのではないかと側の話。</p>	<p>新たな総合計画を策定するプロセスの中でご意見の趣旨を生かしていきます。</p>		総合政策課
6	和田委員	—	策定基本方針	<p>2040年を考えていくとき、その枠組みとして新たなデザインをいかにして、そこからバックキャストイングをして、どういう体制としていくかを中期、短期で見えていく必要がある。</p>	<p>新たな総合計画を策定するプロセスの中でご意見の趣旨を生かしていきます。</p>		総合政策課
7	和田委員	—	策定基本方針	<p>部会の中でチームを分けてでも、例えば2040年の理想の姿を描く、グルーピングで何か議論をするようなことも必要ではないか。</p>	<p>新たな総合計画を策定するプロセスの中でご意見の趣旨を生かしていきます。</p>		総合政策課

NO	委員名	頁	項目名	意見	対応	記載内容等	担当局
将来を見据えた問題意識と当面の課題							
8	小池委員	—	将来を見据えた問題意識と当面の課題	すべての世代の方たちが輝き、活動していくことができるようにしていくためのリスクリングの場と学び直し場ということ、大学でもう一度学び直すということだけではなく、コミュニティセンターのような学び直し機会に触れる場を県としてどう準備していくのか、ということも大切である。	新たな総合計画を策定するプロセスの中でご意見の趣旨を生かしていきます。		総合政策課
9	瀧委員	—	50の視点	神奈川県だけではなくても当てはまる事項が多い。神奈川県ならではの項目は一体なのかというプライオリティ付け、優先順位を挙げて取り組むことを考えたほうがよい。	新たな総合計画を策定するプロセスの中でご意見の趣旨を生かしていきます。 なお、全国のデータであっても、神奈川の将来を考えるにあたり重要なデータは取り上げています。		総合政策課
10	海津委員	—	50の視点	自然をテーマに書きながら実際はエネルギーが中心であり、自然資源そのものどうなのかということが50の視点の中に入らなかった。	2040年の神奈川を考える50の視点に反映しました。	自然資源（森林減少率）に関するスライドを追加する。	総合政策課
11	海津委員	—	神奈川の強み	神奈川県に対する求心力は一体何なのか、SWOT分析をするならば強みになるところ、機会となるところは何かというところを見据えて、どう高めていくのかということを中心に考えることが必要ではないか。	新たな総合計画を策定するプロセスの中でご意見の趣旨を生かしていきます。		総合政策課
12	末富委員	—	将来を見据えた問題意識と当面の課題	フィロソフィー（理念）と呼んでいるものがもう少し記載されていないと一層多様化していく神奈川県民や一時的な定住者も含めて包摂していくことが難しいのではないか。	新たな総合計画を策定するプロセスの中でご意見の趣旨を生かしていきます。		総合政策課

NO	委員名	頁	項目名	意見	対応	記載内容等	担当局
13	伊達委員	—	50の視点	2040年神奈川を考える50の視点について、なぜこの50の視点を選んだのかという背景を明確にする必要がある。このデータは、どこかに向かわせようとしている点で資料として非常に恣意性を感じる。言葉の一つひとつをもう少し丁寧にしていく必要がある。	今回お示しした資料の視点を選んだ背景につきましては、点検の結果を踏まえ、県として今後の神奈川を考えるにあたり、重要であると考え社会環境のデータ等を抽出しました。また、表現については、多くの県民の方に手に取っていただき、様々な角度から2040年の神奈川を考えるきっかけとなるよう工夫しています。		総合政策課
14	原嶋委員	31, 32 ほか	50の視点	31「CO2を減らせるか」32「暑くなる神奈川」とある。いずれも重要なことだが、問題としては重複している。自然の賢い利用や活用という問題をアジェンダとして検討して頂く必要がある。	2040年の神奈川を考える50の視点に反映しました。	スライド31とスライド32を統合	総合政策課
15	矢島委員	4	50の視点	データの解釈とタイトルの結びつきに疑問を感じるところが結構ある。4「減り続ける子ども」について、親世代の人口が減ってきているので、今後対策を打っても子どもの「数」が減ることは避けがたい。行政として、国、県として何ができるかと考えると、「出生率」を上げることはできる。注目すべきは「出生率」なのではないか。	新たな総合計画を策定するプロセスの中でご意見の趣旨を生かしていきます。なお、本資料は、多くの県民の方に手に取っていただき、様々な角度から2040年の神奈川を考えていただくきっかけとするため、意図的に平易で堅苦しくない表現を使用しました。		総合政策課

NO	委員名	頁	項目名	意見	対応	記載内容等	担当局
16	矢島委員	14	50の視点	14「自治体間で分かれる財政状況」で、「一人当たりの財政支出と人口密度の関係」について、人口密度が高い方が、財政支出が少なく済むということはそうであるが、「一人当たりの財政支出と高齢化率の関係」で高齢化率が高い方が一人当たり財政支出が高いと言っているのは、子どもや若者にもっと財政支出をすれば、この関係は変わるのではないかとも言える。これをもって「高齢化」が問題で財政支出が厳しくなるといえるのは、それは意味が違うのではないか。このデータは、子どもや若者に手当していないことの現れなのではないかとも読める。	新たな総合計画を策定するプロセスの中でご意見の趣旨を生かしていきます。なお、委員の問題意識をスライド10「家庭・教育への公的支出の少ない日本」で表現しています。		総合政策課
17	矢島委員	27	50の視点	27「世界の食料は足りるのか」について、今問題になっているのは食料自給率の話で、農業や水産業の健全な発展が大事なのですが、なぜこのデータとして「フードテック分野への投資額」がいきなり出てくるのか。	新たな総合計画を策定するプロセスの中でご意見の趣旨を生かしていきます。なお、食料自給率はスライド34に掲載しています。また、フードテックに関しては、2040年の将来を考えるにあたり、この分野に関する新しい技術の事例として掲載しました。		総合政策課
18	米田委員	45	50の視点	「幸福度は図れるか」について、これまで測る指標としては、GDPが中心になっていたが、経済発展だけを目標にできない時代の中で、いかに維持するかというところを考えると、このような幸福度、GDWという視点はとても大切である。「くらしの不安」にこの項目が入っているが、全体としてどこを目指していくのか考えると、あるべき方向性みたいなどの項目として別立てにしても良いという印象を持った。	新たな総合計画を策定するプロセスの中でご意見の趣旨を生かしていきます。なお、GDWはくらしの不安の裏返しであると考えています。		総合政策課

NO	委員名	頁	項目名	意見	対応	記載内容等	担当局
19	原委員	36, 38	50の視点	一般県民として、すぐわかりやすい資料である。交通事故死亡者よりも遥かに多い自殺者の件について、年代があまり載っていないので、どういう関係で自殺する方が多いのかということがわかる資料として、例えば、年代別の資料等で比較し、会社員の自殺者や小学生のコロナの関係での自殺者等がわかると良い。いじめの認知件数について、認知件数が増えていること自体は、個人的にはいいと思っています。認知件数がこれだけ増加していますというよりは、認知の経緯、生徒から先生に言って、いじめが発見されたか、それとも先生が気づいて、いじめが発見されたことがわかる資料の方が良い。	2040年の神奈川を考える50の視点に反映しました。	スライド36に、年齢別死亡率のグラフを追加（ただし全国のみ） スライド38に、いじめの認知の経緯に関するグラフを追加	総合政策課
20	和田委員	—	将来を見据えた問題意識と当面の課題	高校生たちは、男女共同参画、人権、ジェンダーなどの問題を議論したいと思っている。パブリックコメントで、若者、女性、そういったところを、県の方からも意見を取るのであれば、そういう働きかけをすると若い声が聞けるかもしれないので参考にしてもらえれば。	今後取り組む予定です。		総合政策課
21	小池委員	—	神奈川の強み	神奈川県の特徴や強みに関しては具体的にはなぜ強みなのかという点分かるようなデータがありません。特に強みについて、この点が強みという点を、数字で出せるものがあれば同じような形で出していただくと非常にわかりやすくなる。	新たな総合計画を策定するプロセスの中でご意見の趣旨を生かしていきます。 なお、本資料では他県にない神奈川らしさを表現するため、例えば「美しいなぎさを継承する相模湾」など、定性的な内容も盛り込んでいます。		総合政策課

NO	委員名	頁	項目名	意見	対応	記載内容等	担当局
22	矢島委員	—	将来を見据えた問題意識と当面の課題	総合計画はテーマが幅広く、議論にも回数があり、しっかりと議論することが難しいと思います。先ほど、分科会に分けるというご意見もありましたが、例えば「人口・高齢化」という現象に対して、どういった方向性を持って取り組んでいくのかとか、何が一番重点課題なのかとか、そういうことについてしっかりと議論する会、のように、可能ならいくつかの重要テーマについて取り上げて、しっかりと議論していただくような運営の仕方も、検討していただければ。	新たな総合計画を策定するプロセスの中でご意見の趣旨を生かしていきます。なお、総合計画は、県政運営の総合的・基本的指針を示すものとなりますので、 ・政策分野間の連携 ・1つの分野だけでは解決できない課題の解決方法 ・それぞれの分野間のバランス などについても、ご意見をいただけるとありがたく存じます。		総合政策課
23	原委員	—	神奈川の強み	県央地区に関しての、記載が全くされていないので、厚木市、或いは県央地区を取り入れてほしいと思います。身近にある多彩な自然や文化の中で温泉街や富士山の絶景で知られる箱根と記載されていますが、厚木も温泉などたくさんあり、箱根と記載しない視点もあり得るのではないかと。	新たな総合計画を策定するプロセスの中でご意見の趣旨を生かしていきます。なお、各地域の特色や強みについては、今後地域政策圏ごとの方向性を整理する中で議論してまいります。		総合政策課